

心豊かで主体的に活動する生徒の育成 ～表現力の育成を図るための言語活動の工夫を通して～

I 研究の内容

1. 研究の方向性

本校の生徒は真面目で学習への取り組む姿勢はよく、朝読書や授業に真剣な態度で臨んでいる。しかし、様々な学習活動の中で、自分の考えを発表することに対して消極的な面があり、その場に応じた適切な言葉を使うことが苦手な生徒も多く見られる。総じて、知的活動（論理や思考）の基盤、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となる言語力に課題があるように思われる。

そこで、教科・総合・道徳と学校教育のあらゆる場面で、言語の役割を再認識するとともに、表現力を育成するための言語活動を推進する必要があると考えた。各教科等の特性に応じた言語活動を行い、その教科等の目標や内容をよりよく実現させるとともに、より良い他者理解につながるコミュニケーション活動を仕組んでいきたい。自分の考えや思いを多くの場面で、より適切な言葉で正しく相手に表現することができるようになれば、確かな知性と心豊かな人間性をもち、より主体的に活動する生徒の育成につながるものと考えている。

2. 研究の具体的内容と方法

(1) 表現力を高める言語活動の研究と実践

- ・本校のめざす表現力のある姿にせまるために、教科指導における具体的な手段をさぐり、全職員が共通理解し実践
- ・表現する力を高めるための具体的な言語活動の検討・実践
- ・発表（読むこと・まとめること）ルールの設定と発表方法の工夫
- ・学習形態の工夫
- ・研究授業を通しての実践検証（理科・国語）

(2) 日常生活における言語活動を支える力の育成に関する研究と実践

- ・あいさつ、授業規律、生活規律の徹底
- ・部活動や集会等におけるあいさつの仕方、返事の徹底
- ・言語環境の整備（掲示物など）・その場に応じた適切な言葉遣いの徹底
- ・日々の言語活動の充実（スピーチ、掃除の反省会、ライブ）

(3) 学力向上に関する研究と実践

- ・少人数授業の実践（英語・数学・技家） ・チームティーチングの実践（英語）
- ・全国学力調査や学力把握調査の結果の分析と対策 ・Q-Uテストの実施と分析
- ・基礎、基本の重視、基礎学力の向上に関わる研究と実践
→北斗タイムの実践、ランクアップテスト実施（毎週木曜日）、夏季学習会
- ・読書活動の推進・国語力向上に関する環境づくりの研究
- ・家庭学習の定着（家庭学習の手引き）

II 成果と課題

(1) 表現力を高める言語活動の研究と実践

○今年度も研究を検証する場として、2本の研究授業を行った。指導案検討を通して授業におけるより効果的な言語活動のあり方を探り、授業で検証を行った。本校は小規模校であるので、自分が教えているクラスの研究授業を見ることとなり、教科による生徒の様子の違いなども分かって良かった。

○表現力を高めるための言語活動の工夫について各教科の具体的な実践を出し合い、他教科での取り組みの様子を知ることにより自分の教科に取り入れることもできた。

●研究授業の時期が近かったこともあり、検証したことを次の研究授業に生かすことができず残念であった。

●教科ごとの言語活動の取り組みをさらに深めていくことができるとうい。

(2) 日常生活における言語活動を支える力の育成に関する研究と実践

○あいさつ、授業規律について、生徒会の活動とも関連させて実践を行い、職員も統一意識を持って取り組むことができた。

○塩北ライブを用いての学年はじめの指導により、掃除の反省会や授業の反省など、全校で統一した取り組みの中で日々の言語活動に取り組むことができた。

○朝のスピーチやデイリーライフの記録など、日々の学校生活に言語活動を取り入れることができている。

(3) 学力向上に関する研究と実践

○ランクアップテストを継続して行うことにより、生徒の家庭学習習慣の定着や、意欲の喚起につながった。「満点賞」や「連続満点賞」を設け、目標を持たせることで生徒たちも頑張って取りくんでいた。また、不合格者への個別指導を行い、補充学習の機会とすることができた。

○Q-Uテストのクロス集計の分析を行うことで、生活面、学習面、両面で支援が必要な生徒を確認することができた。全職員で確認し、共通理解をして関わることもできたことも良かった。

●Q-Uの分析を行ったあとに、学級や個に対してもっと手立てを行えたのではないかという反省もある。

●家庭学習については保護者の意見を聞くとまだまだ足りないところもある。量的にも質的にも充実させていきたい。

III 成果物

1年「理科」学習指導案 単元「物質のすがた」

1年「国語」学習指導案 単元「今に生きる言葉」

(研究主任 河野 美春)